

平成 30 年度

「運営に関する計画」

(中間評価)

平成 30 年 10 月 24 日 (水)

大阪市立豊新小学校

(様式2)

大阪市立豊新小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標	
○平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
○平成30年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93%)にする。	
○平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	
○平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に（学期に1度）実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。	
指標 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容②【施策1 安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。	
指標 平成30年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93%)にする。 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	B
取組内容③【施策1 安心できる学校、教育環境の実現】 区役所（子育て支援室）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。	
指標 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 1・2学期の校内調査の結果で判断する。 ② 内調査（児童アンケート）における「学校の決まりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、肯定的に答える児童の割合は91%で、目標(90%)を上回った。実際の学校生活で、だいたいのことは守られているようだが、廊下・階段の歩き方では気になるところがあり、継続して指導していく必要がある。暴力行為を複数回行う加害児童数は年度末の調査の結果で判断する。 ③ 度末の校内調査結果で判断する。	

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。</p> <p>○平成30年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上（H28:83% H29:83%）にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p> <p>指標 年間行事計画に基づき、芸術鑑賞行事、3～6年生で社会見学を実施する。</p> <p>平成30年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上（H28:83% H29:83%）にする。</p>	B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 年間行事計画に基づき、芸術鑑賞行事は10月22日に実施予定であり、3年は、東淀川図書館4月24日、市役所6月8日、9月27日イズミヤに社会見学を実施した。また、11月21日に造幣局、1月11日にくらしの今昔館の見学を実施する予定である。4年は柴島浄水場9月21日、市立科学館6月29日に社会見学を実施した。2学期に東淀焼却工場の見学を実施する予定である。5年生は、10月29日にNHK・歴史博物館、ダイハツ（日時未定）6年生は、NHK・ピース大阪12月6日に見学を予定している。また、校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合は82%で、目標を下回った。道徳を中心に入れには各々の良さがあることを学習しているが、いろいろな場面で活躍でき、認めてもらう機会を増やす場を意識的に作っていく必要がある。</p>

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 30 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上 (H28:84% H29:86%) にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。</p>	
<p>指標 平成 30 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上 (H28:84% H29:86%) にする。</p>	C
<p>達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①委員会、地域のボランティアの方など図書室を開放する時間を増やすことで、児童がより読書を楽しめる時間を確保したので、児童は休憩時間に図書室へ行く機会が増えた。また、6年生による1年生への読み聞かせ等、読書に親しめる機会を増やした。しかし、校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 84%で目標を下回った。今後、読書週間の計画をしており、本に親しみを持てる児童を増やしていく。また、学級文庫の本の入れ替えを定期的に行うことも検討ていきたい。</p>	

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標	
○平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。	
○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。	
○平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加 (H28:76%) させる。	
学校の年度目標	
○平成 30 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90% 以上 (H28:89% H29:91%) にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。	
指標 平成30年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	平成30年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。	平成30年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
取組内容②【施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】	単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。	
指標 平成30年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加(H28:76%)させる。		
取組内容③【施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】	実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。	
指標 平成30年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を90%以上(H28:89% H29:91%)にする。	全教員が一人1回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を8回以上行う。	B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ②平成 30 年度の小学校学力経年調査の結果で判断する。
- ② 校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 93%で目標（90%）を上回った。外国語活動研修会 9 月 19 日、プログラミング研修会 6 月 13 日、6 月 20 日、9 月 11 日、国語科研修会 9 月 28 日の全体研修会を実施した。

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
学校の年度目標	B
○平成 30 年度の校内調査における「I C T を活用した学習はわかりやすい」(H29:95%)、「外国語活動は楽しい」(H29:87%) の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 85%以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C T の効果的な活用方法について指導方法（プログラミング学習等）の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。	B
指標 平成 30 年度の校内調査における「I C T を活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上 (H29:95%) にする。	
取組内容② 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るために、教員研修を充実させる。	B
指標 平成 30 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上 (H29:87%) にする。	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① プログラミング学習の校内研修を実施するなど、研究を進めている。しかし、プログラミング学習は、まだ教員間でも理解があまり深まっておらず、授業実践も蓄積されていない現状である。今後研究授業等を通して、教材研究を深め、児童への理解につなげていきたい。校内調査における「I C T を活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 93%で目標 (85%) を上回った。</p> <p>② モジュール活動やネイティブの先生の指導等によって、児童には外国語学習が身近なものになりつつある。今後は、各学年の学習内容の系統性を考えていく必要がある。校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 91%で目標 (85%) を上回った。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（H28: 男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29: 男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント）させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や跳躍力のアップを目指す取組をする。</p>	
<p>指標 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p>	C
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取組を年間を通して工夫する。</p>	
<p>指標 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（H28: 男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29: 男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント）させる。</p>	B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 持久力の向上は、目覚ましい (+14.4) が、跳躍力 (-6.2) と瞬発力 (-3.7) の下降がみられる。11 月下旬に行う 2 回目の体力テストに向けて、体育の学習を中心にラダーやミニハードルを使った基礎体力を上げる練習を取り入れ、跳躍力と瞬発力の向上を目指している。</p>
<p>② 体育の学習以外でも外遊びや学級遊びの声かけや、全校児童へ向けた運動委員会の活動紹介も計画的に行われており、運動に対する興味・関心を高めている。全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点が、前年度実施した冬の体力テストと比較すると、男子は 51.6 ポイントで昨年度よりも 1.98 上回っているが、女子 51.1 ポイントと 1.24 下回った。</p>